

まずは成功の第1回映像祭

会長 合原 一夫

10月26日の午後、大阪中央図書館にて開催された「第1回大阪アマチュア映像祭」は定員300名のホールにほぼ90%の入りでまずまずの成功を見ました。初めての経験でしたので、判らないことも多くどんなトラブルが起きるのかと心配もしましたが、何の問題も起こらず無事終了しました。立派な手書きの会場入口看板を描いていただいた八洲宏仁さん、舞台上の横断幕を描いていただき、さらに司会の大役をこなされた関剛さん、プログラム作成印刷とポスター作成、図書館との打ち合わせに骨をおっていただいた野村一郎さん、ビデオ投影のハードな面でお世話になった藤原純三さんと、当日お手伝いしてもらった紙本さん、前田さん、記録の森さん、安居さん、受付に当られた大勢の皆さんの支援によって映像祭がスムーズに運営できたものと感謝している次第です。来年以降も毎年、関西地区映像祭の最大のイベントとして続けたいため今後ともよろしく願いいたします。

■課題と反省

反省点として来年度に活かす課題もありました。まず、プログラムの編集の件で、今回は従来の延長のように考えて原案を作り図書館側の了承を求めたのですが、公式書類として個人名は出さないとか、定員と先着順の明記、問い合わせ先、など変更が多く1枚のプログラムでは不可能になったので、急速2枚になってしまいました。やはり1枚で図書館用(2000部)と連盟用と印刷の段階で振り分ける工夫が必要と感じました。また当日の受付状況も今までのように、入場者全員に住所氏名を記入してもらおうやり方が、その場になってダメと判り、そのせいもあって60%位の人しか記入してもらえませんでした。これも予期せぬ事態でした。

ハードの点では、デジタル化した現在、1本のデジタルテープにダビングしておけば、機械操作が随分楽になるであろうということ、ダビングの際に音量調節しておけば、全編一定の音量レベルで安心できること、などが考えられます。音量レベルの点でいえば、図書館の人からは低すぎるのでは、と言われましたが、事前テストで適正と思われた音量も、人が大勢入ると衣服で吸音し、会場全体の音量レベルが下がるので、若干高めめに設定しておく必要がある、などが感じられました。以上、課題と反省点を挙げてみました。

1 1 月例会のお知らせ

1 1 月例会は 2 2 日（第 4 土曜日）1 8 時より、いつもの阿倍野市民学習センターにて行います。行楽の秋、文化、体育の記録等撮影された方も多いかと思います。ふるって作品をお持ち下さい。アドバイスを受けた方は未完成作品でもどうぞ遠慮なく持ってきてください。特に最近入会された方は出品をためらっている方が多いようにも思いますが、まず持ってきて見せて下さい。上達の早道は、自分では気付かぬ点を指摘してもらい助言を受けることだと思います。

前月より新会計年度に入っています。会費未納の方はよろしくお願ひします。年会費 10,000 円（半期分でも結構ですが、なるべく 1 年分お願ひします）です。

今期もどうぞよろしく

世話役一同

1 0 月より新しい年度の始まりに先立ち、1 0 月 1 8 日に世話役会を開催、その結果を受けて例会の合間に会員の皆さんに報告があり了承されましたことをご報告いたします。

1. 世話役選任の件：前年に引続き全員留任と決定
〈会長兼渉外〉合原一夫、〈事務局兼広報〉合原一夫、前田茂夫、〈会計〉森保信、〈例会会場担当(申込連絡等)〉有村博、〈例会運営(司会・書記)〉関 剛、有村博、合原一夫、〈例会運営(機械操作)〉岡本至弘ほか当日出席の藤原、安居他適宜依頼、〈企画〉上総修一朗ほか世話役全員、(以上敬称略)。よろしくお願ひします。
2. 会計報告の兼：1 0 月号 OMC ニュースに記載されている通り森会計より会計報告がなされ了承されました。
3. OMC 映像フェスティバル開催の件(4 頁に掲載)

1 0 月例会レポート

会場の都合で 1 週間早く第 3 土曜になり集まりが心配されましたが、そこはビデオが好きな会員諸氏、18 名の出席を見て開会、司会は有村さん、書記に関さん、機械に藤原さんが担当した。

出席者：有村、今井、岩井、江村、奥、上総、合原、関、那須、中尾、藤原、前田、松本、増池、森、安居、安居(良)、渡辺の 1 8 氏。

OMC 10月例会作品短評

1. サイパン 那須典彦さん 12分20秒
ずばり観光ビデオ。珍しく女性のナレーションまであります。毎度定評のある綺麗な画面、安定した映像。と言いたいところですが、なぜかレンタルビデオを思わせるような画質でした。内容の構成にもばらつきがあり、いつもの那須さんとはちょっと違うなと思っていたら、この撮影旅行の目的はまた別のところにあったそうで、なるほどと、妙に納得できました。
2. 第二の人生 松浦木遊さんと会って 安居利次さん 9分55秒
大手電機会社を定年退職後、自宅を私設図書館にして地域住民に解放。版画や紙芝居づくりに打ち込んでいる人のレポート作品。繋がりがあったとは言え初対面の人物に果敢に取組んだ勇氣に敬意を表します。相手の話をより多くひきだすため、という事はわかりますが、安居さん自身の話や相づちの言葉がすこし多いので見る側にとってはやや抵抗感が残ります。構成に支障がなければその部分をできるだけ切り詰めてください。
3. 東京旅行物語 安居良枝さん 7分
ご夫婦揃って東京アマチュア映像コンテストに入選、おめでとうございます。その受賞式と見物を兼ねて東京へ旅行されたときの記録です。日頃からお揃いのあわて者なのでしょうか（失礼）。この日も出発前からトラブル続き、交通機関はどこも滑り込みセーフ。しかし転んでもタダでは起きないしたたかさもお持ちで、それを作品にしてしまうのですから見上げたものです。ご夫婦それぞれ独特の個性の持主。楽しみです。
4. だんじり 江村一郎さん 5分35秒
岸和田のだんじり祭。今年は雨にたたられ、だんじりそのものに迫力が無かったと言います。見どころの辻まわしはこの作品にありませんが、独特の視点で撮られた映像は江村さんならではの迫力を生んでいます。
5. リスボンの下町 上総修一郎さん 10分
都会のまん中に近代化からとりのこされた町並。ヨーロッパにはこのような所があちこちにあります。この撮影はおそらく単独で行動されたのでしょうか、人、特に大人に向けたカメラにためらいが見られました。私はこういう撮影のとき、お金を払ってでもガイドに同行してもらいます。撮影の可否を教えてください、食事ときは安心してどこにでも入れます。第一安全を買うのだと思えば安いものです。
6. カナダの印象 有村博さん 17分35秒
夫婦旅行の記録。雄大なカナダの自然をたっぷり見せてくれます。ソニーのデジタルデッキDSR-30を買って初めて編集を試みた作品。基本はデジタル編集ですがタイトルとテロップ部分はアナログ。ところが音楽のアフレコをして再生するとアナログ編集の部分だけ音量が落ちるという結果になりましたが、いろいろ研究のすえ解決したそうです。取扱説明書にも載ってないデジタルとアナログ混合編集の音声アフレコ方法を教えて戴きました。
7. 天神祭(蛇踊り) 増池茂さん 8分40秒
ビルの上から群衆を狙うという変わったアングルがよく利いています。しかしピントの悪いデジタルズームの範囲が多かったようで、ちょっと遠すぎた感もします。こういうお祭りを一人で撮影する場合、撮り方を変えて二回、つまり少なくとも二年分の映像を一つにまとめると良い作品になります。来年もぜひ撮影してください。

以上、作品上映を終わり、三々五々喫茶店組と一杯呑み組に分かれて二次会へと散会。

(今月の講評担当：関 剛)

映像フェスティバル・11月30日13時開場 今年からOMC単独開催を復活

ここ数年恒例の映像フェスティバルは、OMCと関西シネクラブとの共催でしたが、今年から元へ戻ってOMC単独主催となり、通算37回目として再出発します。プログラムは下記のとおりで、OMC以外で単独では公開映写会を開いていない友好クラブの参加を求め、招待作品として3本が入っています。今年は大坂アマチュア映像祭の1ヶ月後ということで観客動員数が懸念されますが、朝日生命ホールから阿倍野市民学習センターに開場を移し、収容人員も150名となりましたので、何とか盛会にこぎつけたいと思います。会員諸氏の観客動員にぜひともご協力をお願いします。当日は会場設営(椅子並べ等)や受付等お手伝いをしていただくため、12時半までにはご集合願いたいと思います。

日時：平成9年11月30日(日)13時開場、13時30分開会、16時40分頃には終了予定。

プログラム

1. 喜寿に熱唱	山田 吉男	13分30秒
2. 北海へそ祭	那須 典彦	9分35秒
3. 秋宵一刻	片山 尚子	2分20秒
4. 踊る阿呆に見る阿呆	紙本 勝	3分25秒
5. 犬と私	安居 良枝	7分10秒
6. カナダの印象	有村 博	17分36秒
(休憩)		
7. 浜松まつり 動と静	前田 茂夫	9分17秒
8. ポルトガルの市場	上総修一郎	12分
9. 1300年の夢 朱雀門復元	安居 利次	12分
10. よさこい	江村 一郎	6分
11. よほへ幽艶	関 剛	12分
12. 天神社・とんど祭	合原 一夫	16分30秒

注：上記の中、1.3.4.は招待作品で、山田さんは関西シネクラブ、片山さんと紙本さんは映像集団「地下街」からの出品となります。山田作品はドキュメンタリー、片山作品はポエム、紙本作品は祭の記録で短編ながらダイナミックな映像として惹き付けられるものがあります。最近短編が多くなったので、あと2作品くらいの時間のゆとりがありました。OMC会員からの出品作がこれ以上出ず、断念しました。来年は今年出さなかった人に是非頑張ってもらって良い作品を期待したいものです。また、新入会者の方にも是非フェスティバル出品作品を目指して取組んで欲しいと思います。(合原 記)